



Koryo 雲 High School

〒081-0011 青森県八戸市田向二丁目2番6号/電話 0178-44-8866/FAX 0178-48-9077

<https://kouryo-high-school.com/> /Eメール kouryo@chibagakuen.ac.jp

第49回卒業証書授与式



3月1日(土)、第49回卒業証書授与式が挙行された。就任3年目となる堀内英男校長先生は、「同期」の一人一人に卒業証書を手渡した。校長式辞では「一年生同士何度でもチャレンジを!」と呼びかけた3年前の入学式での思い出を語り、成長した卒業生に目頭を熱くしていた。その後、PTA会長・細越様の祝辞、在校生代表の柄本百絵さん(2年・第三中学校出身)の送辞と続き、卒業生代表挨拶を佐藤翔聖さん(3年・第一中学校出身)が務めた。佐藤さんは、さまざまなことがあった高校生活のすべての瞬間が幸せだったと振り返った。そして、家族や先生方への感謝の気持ち、ともに「青春」した友達への想いを述べた。

式の終わりには、それぞれのクラスから担任へ涙と笑顔のメッセージが贈られた。生徒退場の際には、卒業生が家族のもとへ花束を渡しに行き、抱擁する姿が見られた。その姿を会場全体が温かく見守り、もらい泣きした来賓、在校生らの拍手に包まれ、卒業生40名は学び舎をあとにした。

戻ることができないあの瞬間が青春



肌寒い風が吹きつつも、暖かい日差しが私たちを照らす、今日この日、私たちは三年間の高校生活を終え、ついに卒業を迎えることとなりました。本日は、このような素晴らしい式を挙行していただき、卒業生一同、心から感謝申し上げます。

今、向陵高校で過ごした日々を振り返ると、本当にいろいろな日々が思い出されます。三年前の春、私たちは、真新しい制服に身を包み、不安と期待に胸を膨らませ、入学しました。友達ができるのかと不安になったり、教科数も増えて、勉強はますます難しくなり、慣れない環境での毎日に戸惑うことも多くありました。しかし、自分らしさを出せる友達に出会ったおかげで、自然と不安がなくなり、学校生活が楽しく感じるようになりました。日々学校で顔を合わせたこと、修学旅行で思い出を共有したこと、体育祭や球技大会など、クラス全体で、喜びを分かち合ったこと、そのどれもが大切な思い出です。

そんな私の、向陵生活のすべてが詰まっていると聞いてもいいのが文化祭です。クラスで話し合い協力し、何を作るのかを考え、作業を皆で分担しました。みんなのイメージが共有出来ていない部分もあったと思いますが、一人一人が本気で作り上げたものが合わさることで、二組は、細かい部分にまでこだわった、クオリティーが高い最高の作品を作ることができました。一組は、一人一人の個性が強いユーモア溢れた展示が多く、見る人を驚かせるような作品ばかりでした。それぞれ作業の内容は違いますが、一人一人が本気で取り組むことによって、素晴らしいものに仕上げることができたのだと感じました。

部活動では、私は軽音楽部のステージに向けて、毎日練習に励みました。高校最後の文化祭ステージで、これまでの自分をぶつけることができ、自分のやりたいことを表現するのがこんなに楽しく、やはりバンドが「大好きだ」と実感しました。

そして、楽しくもあり、辛いとさえ感じた生徒会活動。生徒会役員は、文化祭までの準備期間、いろいろなことを考えなければなりません。正直、何度も逃げ出したいと思いましたが、私は、一度に複数のことを考えることが苦手で、一つの物事に集中してしまい、他のことに手が回らなくて迷惑をかけた。上手く周りに指示を出すことが出来なかったり、締切がどんどん近づいてくる焦りや、責任感で、どうしても自分だけこんなに頑張っているのか、どうして自分がこんな思いをしなくていいのだろうか、孤独感を感じたこともありました。しかし、私は「諦めたくない」「逃げ出したくない」と思える理由がありました。それは、ここにいる友達や後輩、先生方、仲間という存在がいたからです。何でも話を聞いてくれる友達、言ったことをしっかり丁寧にやってくれる後輩、困ったときの確かなアドバイスをくださった先生方、その支えで、最後まで頑張ることができました。この皆で作って成功させた文化祭は一生忘れません。本当にありがとうございました。

そして、今まで支えてくれたお母さん。どんなにわがままを言っても、いつも優しく見守ってくれたり、家族のために働きながら、毎日朝早く起きてお弁当を作ってくれたり、私のやりたいことをたくさん挑戦させてくれました。たくさんのお母さんのありがとに溢れていてどんなに言葉を尽くしても足りません。本当に十八年間ありがとうございました。

ここまでの三年間、本当にあっという間でした。もっと長い時間、皆と居られたらと今更思います。喧嘩して言い合っていた日も、好きな人の話をした日も、くだらない話をした日も、すべての瞬間が幸せでした。あの時しんどかったことさえ、笑い話にできたり、ふざけて怒られたことさえ、思い出話になっています。何も無い毎日さえ、幸せに感じさせてくれる「友達」という存在が大好きで、この学校で一生の友達と出会えて本当に良かったです。これから先、社会で採まれることばかりですが、ホロホロになっても、もう戻ることができないあの瞬間が、私にとっては大切に、ずっと青春だと思っています。

ともに生きた「青春」を心に刻み、私たちは、それぞれの道へと向かい進んでいきます。

令和七年三月一日 卒業生代表 佐藤 翔聖

先輩たちのようになりたい



厳しい冬の中にも春の訪れを感じる季節となりました。晴れて卒業式を迎えられた三年生の皆さん。本日はご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

いよいよ、先輩方とお別れする日を迎えてしまいました。皆さんは今、新しい生活への期待に胸を膨らませ、長いようで短かった高校生活の日々を思い出しているでしょう。鮮やかによみがえる様々な出来事は、一人一人違い、積み重ねてきた思い出のどれもが充実した、かけがえのないものだったと思います。友人とのたわいもない語りも、仲間とともに励んだ部活動やチャレンジ講座も、その全ての経験が先輩方の糧となり、これからの人生で背中を押してくれる力となつたはずですよ。

私にとって先輩方の印象は、

「常に明るく元気いっぱい」

学校行事もちろんですが、それを特に感じたのは、私が二年生に上がってからでした。二年生の教室の真上は三年生の教室があります。休み時間になると、上から振動を感じたり、隣の教室で情報の授業を受けていると、声が聞こえてきたりと授業でさえ楽しそうな様子が伝わってきました。

また、私は、一年生のときから、生徒会役員として先輩方と活動とともにしました。三年生を送る会や文化祭では、準備から運営まで何も分からない私たちを、引っ張ってくださいました。与えられた仕事だけでなく、周りを見て行動し、私が気付いたときには、いつの間にか仕事が終わっていたこともありました。どの行事においても、私たちが先導して下さり、心強く、同時に、「私もこうなりたい」と思わせてくれました。一年という、短い活動期間でしたが、一緒に過ごしていく中で、感謝と尊敬の気持ちは日々強くなっていきました。

高校生活は、楽しいことばかりではなく、不安や悩み、さまざまな不満もあったかも知れませんが、しかし、この向陵高校でそれらと向き合い、乗り越えてきたことが、先輩方の大きな自信に繋がったのではないのでしょうか。

私たちは、家族や先生方、友人など多くの人の助けがあって成長することが出来ています。それと同じように、皆さんも、誰かを支えているはずですよ。先輩方の明るさに励まされ、支えられてきた私たちのように、先輩たちの存在が気付かないうちに、これから出会う誰かの助けとなるでしょう。

最近の社会情勢は大きく変動しています。正しいことが本当に正しいのかが、分からない時代だからこそ、周りのことを考え、ともに生きる姿勢が必要です。どんなに難しい道であっても、自身を信じ、歩み続けてください。

私たちが先輩方に負けないように日々努力してまいります。

最後になりますが、先輩方のご多幸とさらなるご活躍を心からお祈りいたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

令和七年三月一日 在校生代表 柄本 百絵



校内表彰

《皆勤賞》

1年 伊東 茜音(是川中学校出身)

五戸 文雅(白銀中学校出身)

鈴木 柊介(大井町立湘光中学校出身)

中居 怜音(江陽中学校出身)

西野 旬(大館中学校出身)

本田 優月(湊中学校出身)

山本 奈菜美(三条中学校出身)

小田 紗織(江陽中学校出身)

佐藤 蕾咲(南足柄市立足柄台中学校出身)

高橋 流那(大館中学校出身)

巻 勇樹(第一中学校出身)

《精勤賞》

1年 三浦 咲月(明治中学校出身)

頼住 隆汰(厚木市立小鮎中学校出身)

2年 石井 涼太(根城中学校出身)

清水 菜名(白銀中学校出身)

関畑 朱雀(白山台中学校出身)

前田 虎次朗(湊中学校出身)